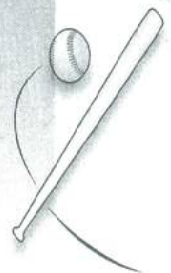


# エース寺岡 頂点後の低迷

箕島球友会  
**悲願へ**  
 社会人野球  
 日本選手権



11月2日に大阪市の京セラドーム大阪で開幕する第43回社会人野球日本選手権大会に、和歌山箕島球友会が2年ぶりに出場する。先月あった第42回全日本クラブ野球選手権大会で2年ぶりに優勝し、切符をつかんだ。5回目の出場で悲願の日本選手権初勝利を目指すナインの軌跡をたどる。  
 【木原真希】

## 戦いの軌跡①

勝負どころを託されるのは、やはりエース。2016年7月3日、兵庫県西宮市の大阪ガス今津総合グラウンドのマウンドに、寺岡大輝投手(24)が立った。2連覇を目指していた全日本クラブ野球選手権の西近畿地区予選。第2代表を決める県警桃太郎(兵庫)戦は、7-7で延長十回にもつれ込んでいた。チームは3-7と劣勢の九回裏、一挙4点を返して追いつき、勢いに乗っている。前年の優勝の立役者の寺岡投手は、先頭打者を右飛

に打ち取り、順調に滑り出した。だが、次打者に与えた四球が流れを変える。内野安打が2本続き、塁を埋められた。1死満塁からスライズで1点。次打者にも右前適時打を放たれ2点。エースが3点を奪われ、チームは敗れた。まさかの予選敗退。とはいえ、伏線はあった。15年のクラブ選手権を制したチームは、大阪・和歌山予選を免除されていた。西近畿地区の出場枠も1増え、林尚希主将(27)らは「『本大会には出場できるだろう』と思っていた」と振り返る。漂う油断。予選1週間前、寺岡投手が運転中に交通事故を起こし、けがしてしまふ。他の投手にも故障が相次いでいた。西川忠宏監督(56)は「調子を崩していたが、寺岡に頼るしかなかった」と振り返る。

迎えた一回戦の相手は、決定戦で苦杯をなめることになる県警桃太郎。「負ける訳ない」(西川監督)相手だ。しかし、先発した寺岡投手は初回到2点を奪われ、4-2と逆転した六回にも3点を失う。「次の試合もある。ここで無理させなくても」(西川監督)と判断した継投も裏目に出て、救援の4投手が7点を奪われ、6-12と大敗を喫した。

敗者復活トーナメントを何とか勝ち上がり、決定戦で再び顔を合わせた県警桃太郎。「2度負ける訳ない」という根拠のない自信は砕け散った。「杵が増えた中で勝ちきれなかったのは自分のせい」と寺岡投手は敗戦の責任を負った。

再起を期したチームだが、今年に入っても調子が上がらない。昨年まで3年連続で近畿2次予選に進出していた都市対抗野球大会も、大阪・和歌山1次予選で敗退してしまふ。

続く低迷。だが、苦しい日々はチームに緊張感をもたらす。引き締まった雰囲気の中、ナインは今年のクラブ選手権に臨んだ。

◇第41回全日本クラブ野球選手権大会西近畿予選  
 =2016年7月

【1回戦】

●6-12県警桃太郎

【敗者復活1回戦】

○5-3関メディベースボール学院

【代表決定戦】

●7-10県警桃太郎※敗退

◇第88回都市対抗野球大阪・和歌山1次予選=17年4月

【1回戦】

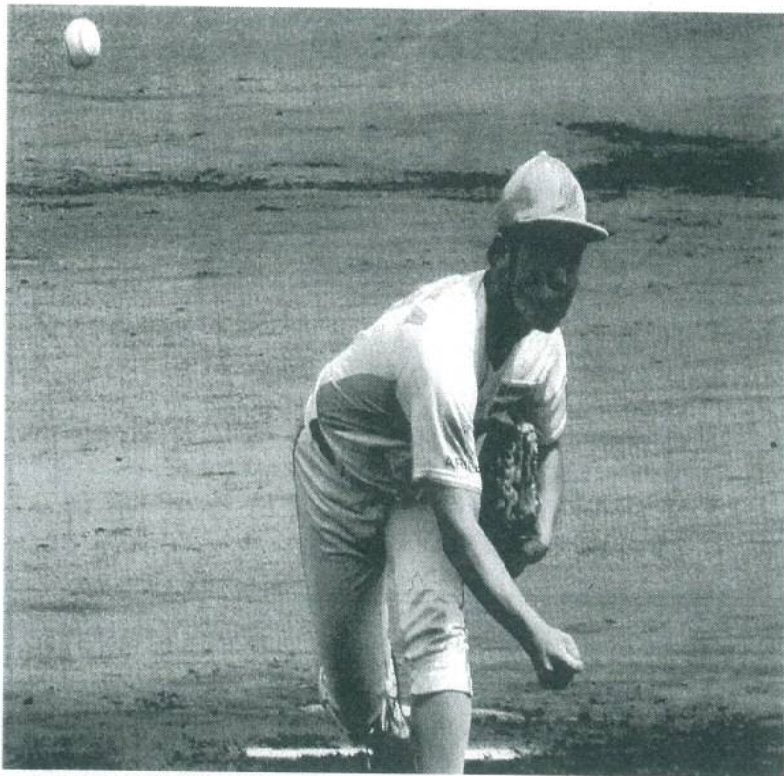
○12-2八尾ク(七回コールド)

【準決勝】

○8-3泉州大阪野球団

【決勝】

●3-6NSBK※敗退



2016年の西近畿予選で力投する寺岡大輝投手—兵庫県西宮市の大阪ガス今津総合グラウンドで、和歌山箕島球友会提供